

人間科学部

●人間科学科

(現代心理学コース)
(メディア・デザインコース)
(スポーツ健康コース)

人間科学部新入生の皆さんへ

「あなたの可能性は無限です」 本気になれる何かを見つけてください

人間科学部長 半田 裕

皆さん大阪経済大学にご入学おめでとうございます。いよいよ大学生活の始まりですね。中学から高校の6年間は生徒と言う立場で学校に通っていました。大学では皆さんの事を生徒とは言いません、学生と言います。中学・高校では他律的に学びを深めてきた皆さんが、大学では自律的に学びを、自らのチカラで深めていく事が求められるわけです。

そこで今日お伝えしたいメインのメッセージは「**あなたの可能性は無限である**」という事です。実現できない夢もある。しかし夢を描き、その夢を実現するために、持てる限りの智力、体力、気力を振り絞らない限り、人間が鍛えられず、絶望の味も歓喜の味も知らず心も生活も豊かにならないまま人生を終える事になる。ようするにやってみなければわかるかどうか分からない。なぁそうだろう。

これは私が尊敬するアメリカの経営コンサルタント Tom Peters の言葉です。彼が伝えたいメッセージは一度しかない人生で自分が「**本気**」で取り組める何かを見つけて自分の持っている全てをそれにかけてみたらどうだろう。という事です。

自分の可能性を無限に広げる手段として、まず本気で取り組める何かを見つける事が大事です。

それでは、本気って何だろう？と言うわけですが、時間を忘れて没頭できるほど一生懸命になれる瞬間。と定義したとしたら、皆さんも過去に経験したことがあると思うのです。

部活を本気で頑張った。彼女、彼氏のことを本気で好きになった。少年野球に本気で没頭した。ボランティア活動を本気でした。本気でアルバイトをした。本気で山に登った。本気のサッカー小僧だった。無我夢中で本気で受験勉強をした。皆さんもそれぞれ何かに本気になったことがあると思います。

私は皆さんに当学で過ごす4年の間に、大人になったあなたがもう一度、「**本気**」になれる何かに是非出会って欲しいのです。時間は十分にあります。本気になれる何かに出会う。大学の4年間ほど、そのチャンスに溢れている時は無いと思うわけです。本気になった人には勝てません。本気です。

本気の次に話したいのは「**時間**」です。

時間と言う資産は凄いです。孫正義さんも、岸田 文雄さんも、ビル・ゲイツさんにも、神様は同じ一日、24時間しか与えていません。みんな同じです。孫さんだけが一日48時間だったりしないわけです。まさに、平等です。

しかしながら、時間はそれを使う人によっては素晴らしく有効に使う人もいれば、まったく無駄に使ってしまう人まで千差万別です。大学での4年間ほど自分の考えで時間を支配（コントロール）できる時はありません。

社会に出て働きだすと嫌と言うほど思い知るのですが、時間を自分で支配（コントロール）できる事が困難になってきます。大学生活の4年間は35,040時間です。その自由な時間がいよいよ始まるわけです。

是非、この貴重な自分の人生の4年間の時間を有効に使って欲しいです。

「いったい自分は何になりたいのだろう？」それが大学生の一つの永遠のテーマだとしたら、その答えは案外、自分が本気になれる何かを、この4年の間にみつけることにあるのかもしれませんが。

では少し学部の話させてください。

■人間科学部とは

心と体、そしてメディア。3つのテーマを柱に人々の豊かな未来を展望する。

人間とは何か。この大きな問いについて考えるとき、「心」「体」そして「メディア」という観点からの考察は欠かせません。人間科学部ではそれぞれに対応する3つのコース「現代心理学」「スポーツ健康」「メディア・デザイン」を用意。私たちの周囲に存在するさまざまな事象を客観的に見つけ、それらの関係性を再構築する方法を探究します。

学んだ理論は、実験やフィールドワークで実践。どんな場面でも応用できる能力を身につけ、自由にキャリアを描く人材を育てます。

■人材養成の目的

人間科学部では、人間を様々な角度から研究することを目標とする。

人間の心や身体はどのように働いているか、人間を取りまく社会や文化はどのように形成されているか、そして、その中に生きる人間とはどのような存在なのかを追究する。

人間について総合的・学際的に学ぶとともに、フィールドワークや体験型学習を通じて心理、身体、社会、文化について専門的に探究することによって、人とつながり、人をつなげる力を育成します。

■人間科学部 学びの特徴

1. 実践的な授業が豊富に揃う実務経験豊かな教授陣による教育

人間科学部の特長は、実践的な授業が豊富にあること。教室に座って知識を得るだけでなく、スポーツ指導実習、スポーツビジネス現地実習、カウンセリングのロールプレイ実習、メディアコンテンツ制作演習など、それぞれのコース独自の専門的な授業を用意しています。また海外で実施する実習もあります。

2. 人間科学部だけの資格が豊富 専門性のある進路が開かれている

現代心理学コースでは、心理学系の唯一の国家資格である「公認心理師※」、スポーツ健康コースでは、「中学校・高等学校の保健体育教員」や「健康運動指導士」、メディア・デザインコースでは、消費者行動などを分析する「社会調査士」と、他の学部とはひと味違う資格科目を用意しています。

※「公認心理師」は学部において省令で定める科目を修めて卒業し、かつ、大学院において省令で定める科目を修めて修了、あるいは省令で定める機関において2年以上の実務経験を積んだうえで受験資格を取得できます。また大学院では、必要な科目を履修することで「臨床心理士」の受験資格を取得することができます。

3. 進路は専門職だけではない 卒業生はさまざまな分野で活躍

人間科学部卒業生の就職先は、専門職だけではなくありません。他の学部と同じく、各業種の一般企業で、事務職や営業職などでも活躍しています。心理学で学ぶコミュニケーション力や協調性、スポーツで養うリーダーシップや判断力、デザインに欠かせない企画力や発想力などが身につく、社会に適用し、また貢献できる人物として成長することができます。

大阪経済大学、そして皆さんが入学された人間科学部では優秀な先生方が非常にユニークなカリキュラムを用意し皆さんの受講を待っています。ゼミのクラスも同じくです。

どの授業を受けるか？どのゼミのクラスを選択するか？それもあなたの自由です。

もう生徒ではありません。皆さんは自らのチカラで学びを深める学生なのです。

「あなたは一度しかない人生でどんなあなたになりたいですか？」

「あなたの本気になれる学びとは何ですか？」

「あなたの人生の白いキャンバスを何色に染め上げますか？」

あなたの可能性は無限です。

人間科学部の3ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学の定める全学的な学位授与の方針に基づき、人間科学部が示す以下の知識や能力、姿勢を備えた者に学士（人間科学）を授与します。

（人間科学部DP1）

心理学、メディア・デザイン学およびスポーツ健康学の基礎を横断的に学び、さらには専攻した分野を専門的に学び実践的な思考力を身に付け、現代社会における諸問題を発見・予測し、その解決の道筋を立てることができる。

（人間科学部DP2）

幅広い教養と心理学、メディア・デザイン学、スポーツ健康学から専攻した分野における専門的な知識と技能を身に付け、社会生活に役立てることができる。

（人間科学部DP3）

職場・地域・家庭などさまざまな生活の場で人びとが直面している諸課題に積極的に関わり、社会や他者と主体的につながることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間科学部の学位授与の方針に掲げた知識・能力を身に付けるため、全学の教育課程編成・実施の方針に基づき、学位プログラムを以下の通り編成します。

（人間科学部CP1）

全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために語学科目・広域科目を編成する。

- ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための思考力を身に付ける。

また、指定する科目群の中から修得することで、人間科学部での学びの基礎を身に付ける。

（人間科学部CP2）

人間科学部の専門教育科目を以下の通り体系的に編成する。

□学位プログラム共通

・「基礎科目」

初年次で必ず履修する「基礎演習」や「キャンプ実習」によって学修の基本的なリテラシーと自主性と協調性を身に付ける。

・「基礎選択科目」

心理学／メディア・デザイン／スポーツ健康科学の3分野について、専門につなげる基礎的な科目を編成し、人間科学に関する幅広い知識を身に付ける。

・「専門実践演習科目」

所属する以下のコースの専門的な知識やスキルを座学だけではない討論や実習、プレゼンテーションによる実践的な演習によって身に付ける。

・「コース専門科目」

以下の3コースで示す知識・能力を身に付けることができるように教育課程を編成する。

□現代心理学コース

大きく分けると人間の記憶や学習、知覚、感情、知能といった広汎な心理現象を科学的に探求

する「基礎心理学」と、基礎心理学の理論や法則、成果を実際の生活や問題解決、仕事に役立てようとする「応用心理学」があり、応用心理学の範疇に【臨床心理学領域】と【ビジネス・社会心理学領域】の2つの領域がある。現代心理学コースではこれらの領域について教育課程を編成する。

□メディア・デザインコース

新しいメディア状況・社会状況の中で活躍していくため、メディア・デザインコースでは【コンテンツ制作系】、【企画プロデュース系】、【課題発見系】の三つの系の教育課程を編成している。また講義に加え、初年次から専門領域への導入部分をワークショップで体験しながら、メディアとデザインについての自身の関心や適性、将来の進路などを考えて、コンテンツ制作や社会調査・マーケティングについて実践的に学ぶワークショップ科目を編成している。

□スポーツ健康コース

深く人間の健康や運動・スポーツについて、社会や自然といった人間を取り巻く環境の中で「生きていく力」をより強固にすることを健康・スポーツの側面から支援するために、【ヘルスデザイン領域】、【スポーツコーチング領域】および【スポーツビジネス領域】の3領域から教育課程を編成している。

(人間科学部CP3)

自らの研究テーマの発見と、文献やデータの収集・分析・考察を他の学生と切磋琢磨しながら進め、4年次の卒業研究においてその成果を集大成する。

その他少人数教育科目では、実習や実践を通して、各コースにおける特定の課題に対する解決のアプローチの手法を学ぶ。

これらの教育課程について、「大阪経済大学アセスメントポリシー」に基づき、様々な角度からの評価（試験・レポート、小テスト、外部アセスメントテスト等）をすることにより学修成果を把握します。

また、教育課程における各授業科目については、シラバスに到達目標を定めどのように評価するかを記載することで質を保証するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

人間科学部は、教育目標に定める多彩な職業人を育成するため、次のような意欲と能力を備えた者を受け入れます。

(人間科学部AP1)

入学後の学修に必要な基礎学力を有する者

・人文・社会科学系の大学で学ぶ上で必要となる、高等学校等における国語、数学、英語、社会等の知識を修めている者。

(人間科学部AP2)

主体的に学ぶ素養をもち、その能力をさらに高めることに意欲をもつ者

・学内外の諸活動に積極的に取り組み、能動的に学問に触れ、知識を深めることに意欲をもつ者。

(人間科学部AP3)

多様な人々と協働しながら学び、議論を行うことに意欲をもつ者

・他者と積極的にコミュニケーションを図り、互いを認め合い、切磋琢磨することに意欲をもつ者。

上記のような者を受け入れるために、以下の入学試験において公平かつ適正に選抜します。

【総合型選抜】 【学校推薦型選抜】 【一般選抜】 【社会人入試・国際留学生入試】

(各選抜方式の詳細は「全学アドミッション・ポリシー（6ページ）」を参照してください)

1. 人間科学部で履修する科目の概要と履修の流れ

1 人間科学部で履修する科目の区分と必要単位数

人間科学部で開設されている科目の区分とその性格、必要単位数は次のとおりです。それらを合わせて、人間科学部で卒業に必要な学科専攻科目の単位数は100単位^{※1}になります。

※1：大学卒業に必要な単位数は全学共通科目の24単位を含めた124単位です。全学共通科目の履修の要件には学部によって異なる場合がありますので、本手引きの全学共通教育科目に関する説明（41～50ページ）や「授業科目 年次配当表・時間割表」をよく読んで、間違いのないように履修してください。

(A) 基礎科目

(A-1) 基礎科目（必要単位数6単位）

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」と「人間関係の理論と実践」で、人間科学部における学びの導入として、1年次に学ぶことになっている科目です。「基礎演習Ⅰ」と「人間関係の理論と実践」は必ず履修しなければなりません^{※2}。

(A-2) 基礎選択科目（必要単位数8単位）

人間科学部の学生全体を対象とした科目で、各コースの導入科目（「心理学概論」「臨床心理学概論」「メディア論」「メディア・デザイン入門」「スポーツ健康科学概論」「健康と運動」の6科目）、学際的な学びへの導入科目（「人間探究入門」）、および情報リテラシーにかかわる科目（「情報リテラシー実習」）です。

※2：「基礎演習Ⅱ」を履修しない場合、「基礎演習Ⅰ」や「人間関係の理論と実践」の単位が修得できなかった場合は、不足分を（A-2）区分の科目で代替しなければなりません。

(B) 専門科目

(B-1) 専門実践演習科目（必要単位数4単位）

専門的な考え方や研究方法など、所属コースでの学びに必要な基本的な事柄を修得するために、少人数の演習形式で行われる科目です。2年次の春学期・秋学期に1科目ずつ（同じ科目でⅠとⅡが開設されている場合は原則としてその両方）履修します^{※3}。

(B-2) コース専門科目（必要単位数46単位）

各コースにおいて専門的な事柄を学ぶための講義、演習、実習科目です。開設科目数も多く、必要単位数ももっとも多くなっています。各コースでの学びのポイント（H-12ページ以下）や取得したい免許や資格の要件なども参考にしながら、履修する科目選びます。（所属コース以外の科目も履修できますが、その場合には（C）区分の単位として認定されます。）

※3：専門実践演習の単位を修得できなかった場合は、不足分を所属コースの（B-2）区分の科目で代替しなければなりません。

(C) 選択科目（必要単位数はC-1、C-2合わせて28単位）

(C-1)

所属コース以外の（B）区分単位、（A）（B）区分の剰余の単位、全学共通科目の〔外国語科目・広域科目〕の剰余の単位、全学共通科目〔オープン科目（ただし、本学部の科目は除く）〕になります。全学共通科目の単位の上限は8単位です。

(C-2)

教育職員養成課程配当の「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」でもある教養関連科目で、人間科学部の卒業単位としても認められる科目です。

(D) 演習科目（必要単位数8単位）

「専門演習Ⅰ・Ⅱ」（3年次）および「卒業研究」（4年次、通年）。通称ゼミと呼ばれる授業で、3年次から卒業までの2年間にわたって、担当教員の指導のもとでそれぞれが学習や研究、制作などに取り組み、その発表や討論などを中心に行われる授業です。必ず履修しなければなりません^{※4}。

※4：「専門演習Ⅰ・Ⅱ」（必修）の単位が修得できなかった場合は、（B）区分の科目で代替しなければなりません。「卒業研究」（必修）の単位が修得できない場合には、在学期間が4年を超える者に限り、（B）区分から新たに2科目4単位を修得することで代替できます。

2 人間科学部における4年間の履修の流れ

大学に入学した1年次には、全学共通科目と人間科学部の基礎科目を中心に履修し、所属コースが決まった2年次から、専門科目を本格的に学んでいくことになります。3年次からはゼミに所属して、担当教員の指導を受けながら、継続的に課題や研究に取り組んでいきます。そして、4年次には大学での学びの集大成として、卒業研究をまとめることになります。

1 年次

基礎科目の履修

- ・「基礎演習Ⅰ」と「人間関係の理論と実践」は1年次の春学期に必ず履修しなければなりません。いずれも、どのクラスでどの時間に履修するかは大学から指定されます。
- ・「基礎演習Ⅰ」は、大学での学び方について学ぶ授業です。ノートの取り方、資料の探し方、レポートの書き方、発表のしかたなどについて学びます。少人数なので、受講生間での交流が生まれて友達になったり、教員といろいろと話したりすることもできやすく、大学での新たな学びの出発点になります。
- ・「人間関係の理論と実践」は、様々な現場実習を通じて、大学での各自の学習目的を明確にすることを目指します。すでに目的が明確な学生にとっては、さらに大学での知識やスキルが実社会でどのように役立つかを考えるきっかけにします。また、事前学習、現場実習実施、事後学習をそれぞれグループで実施することで、友人同士や実習先の人たちとの人間関係もつくります。実習内容は「スポーツゴミ拾い」、「地域防災」、「スポーツ登山」などの予定ですが、年度ごとに変わります。
- ・秋学期の「基礎演習Ⅱ」は、文献講読、文章作成、調査発表、討論などを通じて、大学での学びのリテラシーをさらに高める授業です。「基礎演習Ⅱ」は、その内容に担当者の専門性も反映してくるので、自分の関心に合わせて選択することができます。「基礎演習Ⅱ」の履修には予備登録が必要です。登録手続き等についてはKVCを通じて案内をしますので、よく注意をして確認するようにしてください。また、定員を超えた場合には成績等による選考があり、希望した授業を履修できないことがあります。

基礎選択科目の履修

- ・コースの導入科目は、そのコースでのその後の学びの基礎となるので、関心のあるコースの導入科目については、できるだけ1年次に履修しておくことが望ましいと言えます。各コースの導入科目は次の通りです。

現代心理学コース：「心理学概論」（春学期）^{※5}、「臨床心理学概論」（秋学期）

メディア・デザインコース：「メディア・デザイン入門」（春学期）、「メディア論」（秋学期）

スポーツ健康コース：「スポーツ健康科学概論」（春学期）、「健康と運動」（春学期）

- ・広く人間科学部における専門的な学びに関心のある場合や、どのコースに進むか決まっていなかった場合にも、是非、各コースの導入科目の中からいろいろな授業を履修してみてください。
- ・「情報リテラシー実習」も、できるだけ1年次に履修しておくことが望めます。

※5：公認心理師をめざす場合は、全学共通科目の「心理学入門」ではなく、「心理学概論」を履修してください。

コース専門科目の履修

- ・各コースのコース専門科目の中には1年次から履修できるものもありますので、履修に余裕があれば、コース専門科目の中からも関心ある科目を選んで履修することよいでしょう。
- ・取得したい免許^{※6}や資格が決まっている場合には、そのために必要なコース専門科目を1年次から計画的に履修していくことが推奨されます。

※6：教員免許の取得をめざす場合は、本学では1年次の秋学期から始まる「教育職員養成課程」に登録することが必要です。教職課程に関する連絡事項はすべてKVCを通じてなされますので、よく注意しておいてください。

2年次からのコースの選択について

- ・1年次の秋学期（11月～12月頃）には、2年次から所属するコースの選択があります。各コースの導入科目の履修などを通して、その頃までには進みたいコースを決めておいてください。
- ・コース選択の手続きについての詳しいことは「基礎演習Ⅱ」の授業やKVC等を通じて案内しますので、よく注意しておいてください。
- ・あるコースに希望者が集中しすぎた場合には、1年次の成績に基づいて選考がなされることがあります。その場合は第2希望以下のコースに所属することになります。

2年次

専門実践演習科目の履修

- ・そのコースの専門領域における方法論や必要な技能を、実践的、体験的に身につけていくための科目です。人間科学部においてもっとも特徴的な科目群で、各コースでの学びの土台となる部分を習得する最も重要な科目になります。
- ・2年次の春学期・秋学期に、必ず、所属するコースの専門実践演習科目の中から各1科目を履修します。同じ科目名でⅠとⅡが開設されている場合は原則としてその両方を、そして、同じ科目名の授業が複数ある場合には同じ担当者の科目を履修します。メディア・デザインコースとスポーツ健康コースの専門実践演習科目の履修には予備登録が必要です。登録手続きについてはKVCを通じて案内をしますので、よく注意をして確認するようにしてください。定員を超えた場合には成績等による選考があり、希望した授業を履修できないことがあります。
- ・現代心理学コースでは、「臨床心理学実践演習（心理的アセスメント）」と「臨床心理学実践演習（心理学的支援法）」を春学期と秋学期とに分けて履修します。また、専門実践演習科目以外に「心理学統計法Ⅰ」（春学期）と「心理学実験Ⅰ」（秋学期）についても2年次に必ず履修しなければなりません。これら4科目については、履修漏れを防ぐため、どのクラスでどの時間に履修するかが、あらかじめ割り振られます。ただし、特に希望するクラスや時間がある場合には、自分で履修変更をすることが可能です。

コース専門科目の履修

- ・2年次からは、所属コースのコース専門科目を本格的に学んでいくことになります。同じコースの科目でも領域や系によって分かれていたり、基礎と発展に分かれたりしていますので（H-18～19ページの履修系統図参照）、それらの点にも留意しながら履修してください。^{※7}

- 取得したい免許や資格がある場合には、そのために必要な科目の単位を全て修得できるように計画を立てて履修してください。

※7：所属コースで学ぶ中で興味や関心が変わり他のコースへの変更を希望する場合には、3年もしくは4年の春学期の授業が始まるまでに変更の手続きをしておく必要がありますので、それまでに教務部に相談をしてください。コースを変更した場合には、修得した専門科目の単位について、その区分が変わってきますので、くれぐれも注意してください。

専門科目以外の科目の履修

- 全学共通科目や基礎選択科目に必要な単位数をまだ満たしていないものについては、2年次以降も引き続きそれらの科目を履修していきます。全学共通科目は、必要単位数を超えて履修した場合でも、8単位までは人間科学部の（C）区分の単位として認められるので、自分の関心に合わせて、広域科目や語学科目、また他学部のオープン科目を履修してもよいでしょう。
- 基礎選択科目では、「インターンシップ」などのキャリア形成に関する科目も履修できるようになるので、将来の進路のことも考えながら積極的に履修するとよいでしょう。

3年次からのゼミの選択について

- 2年次の秋学期（11月頃～）には、3年次から所属するゼミの選択があります。人間科学部では、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」と「卒業研究」を必ず履修しなければなりません。
- 希望者がゼミの定員を超えた場合には、成績等によって選考されます。定員を超えた場合の選考においては、原則として所属コースの学生が優先されます。また、選考で外れた場合は、第2志望以下のゼミに所属することになります。
- ゼミは、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」から「卒業研究」まで、原則として2年間を通して同じゼミに所属することになります。
- ゼミは、履修した専門実践演習とは関係なく選択することができます。また、基本的には所属するコースの教員のゼミを選択しますが、他コースのゼミを選択することも可能です。
- ゼミ選択のスケジュールや手続きについての詳しいことは専門実践演習の授業やKVC等を通じて案内しますので、よく注意しておいてください。

3年次

- 3年次からはゼミに所属して、担当教員の指導を受けながら、個々人あるいはグループで、課題や研究に継続的に取り組んでいくことになります。調査、実践研究、それらの成果の発表など、これまでもまして主体的で能動的な学びの姿勢が求められますが、担当教員からよく指導を受けながらそれらに積極的に取り組むことで、大学での学びが大きく進展することになります。また、ゼミによっては、ゼミ合宿なども行われることがあります。^{※8}
- コース専門科目や専門科目以外の科目の履修の進め方については、2年次と同様です。コース専門科目を含めて4年間で必要単位を修得できるように、見通しをもって履修するようにしてください。

※8：事情によりゼミの変更を希望する場合には、各学期終了時に他のゼミに異動することができます。ただし、「卒業研究」は通年科目のため、その途中での変更は原則としてできません。ゼミの変更を希望する場合には、現所属のゼミの担当教員と新しく異動するゼミの担当教員の了解を得て、教務部に「転籍届」を提出する必要があります。ゼミの変更を希望する場合には、教務部で相談してください。

4 年次

- 引き続きゼミに所属し、担当教員の指導を受けながら、大学での学びの集大成としての卒業研究に1年間を通して取り組み、それを完成させます^{*9}。コースやゼミによっては発表会等も行われますので、そのスケジュールや要件等については、コースからの案内や担当教員の指示によく注意しておいてください。
- コース専門科目や専門科目以外の科目の履修の進め方については、3年次と同様です。4年次には就職活動等で授業に出られないことなども起こりやすくなりますので、卒業研究については、担当教員ともよく相談をしながら計画的に進めるとともに、それ以外にも必要な単位が残っている場合には、取りこぼしが起こらないように、十分な確認と余裕をもった履修計画を立てることが必要です。

※9：「卒業研究」は必修科目のため必ず履修して単位を修得しなければなりません。在学期間が4年を超えた者が（B）区分から新たに2科目4単位を修得することによって「卒業研究」を代替する場合には、「卒業研究」の担当教員の了解を得て、教務部に「辞退届」を提出する必要があります。

◇◇◇ 学期あたりの履修単位数制限の計算に際しての注意事項 ◇◇◇

各学期に履修可能な単位数には、1年次は22単位、2年次以降は24単位までという制限がありますが、単位数の上限の計算に際しては次の点に注意してください。

- 卒業研究は通年で4単位ですが、履修可能な単位数の計算の上では、半期ごとに2単位として計算します。
- 夏季休暇中開講される集中講義は、秋学期に履修した単位数として計算します。例えば、3年次に夏季の集中講義を2科目4単位分履修した場合には、その秋学期に履修できる単位数の上限は、それら集中講義分を除いた20単位になります。
- 以下の科目の履修については、履修可能な単位数の上限の計算の対象には含まれません。
 - 全学共通科目 必修外国語科目の再履修
 - 全学共通科目 「語学研修」「インターンシップ」
 - 「卒業研究」の再履修
 - （B-2）コース専門科目（スポーツ健康コース）「スポーツ実務実習b（海外視察型）」
 - （B-2）コース専門科目（現代心理学コース）「福祉心理学特殊講義（保育士）」※資格科目
 - 大学コンソーシアム大阪の単位互換科目、関西外国語大学単位互換科目

2. 各コースの学びのポイントと各種資格について

1 現代心理学コース

学びのポイント

現代心理学コースには【臨床心理学領域】と【ビジネス・社会心理学領域】の2つの領域があります。

【臨床心理学領域】では、心の発達、心理療法、心理的援助、心理的アセスメントなどについての基本的な事柄を学び、心理学的援助に必要な基本的知識とスキルを身につけることをめざします。

【ビジネス・社会心理学領域】では、社会や企業、組織における人々の心理と行動との関係について、特に実験心理学の理論と方法を用いて、人間の行動についての法則やこころのメカニズムを科学的に解明する力をつけることをめざします。

この2つの領域は、いずれも人間の記憶や学習、知覚、感情、知能といった広汎な心理現象を科学的に探求する基礎心理学の理論や法則、成果を実際の生活や問題解決、仕事に役立てようとする「応用心理学」の範疇に入ります。

公認心理師資格の修得について

日本初の心理学の国家資格である公認心理師の第1回目の試験が2018年におこなわれ、2019年に最初の公認心理師が生まれました。

公認心理師試験の受験資格を取得するには、本学で所定の科目すべてを修得して卒業したうえで、定められた機関に就職して心理支援者として2年～3年の実務経験を積む【実務者トラック】、または公認心理師カリキュラムをそなえた大学院修士課程で必要科目をすべて修得して修了する【大学院トラック】のいずれかに進む必要があります。

いずれにせよ、在学中に所定の科目をすべて修得しておく必要があり、修得できない科目を1つでも残して卒業してしまうと公認心理師の受験資格は得られません。【実務者トラック】の就職はかなりの狭き門です。同様に、公認心理師の大学院修士課程に進む【大学院トラック】についても、厳しい受験に合格し、さらに大学院での学びを修了するのは大変なことです。公認心理師資格を目指すのであれば、1年生のときから熱心に勉学に取り組むようにしてください。

なお、公認心理師カリキュラムとして修得しなければならない科目は次の通りです。

公認心理師 大学における必要な科目

1. 公認心理師の職責	14. 臨床心理学実践演習（心理的アセスメント）
2. 心理学概論	15. 臨床心理学実践演習（心理学的支援法）
3. 臨床心理学概論	16. 健康・医療心理学
4. 心理学研究法	17. 福祉心理学
5. 心理学統計法Ⅰ	18. 教育・学校心理学
6. 心理学実験Ⅰ	19. 司法・犯罪心理学
7. 知覚・認知心理学	20. 産業・組織心理学
8. 学習・言語心理学	21. 人体の構造と機能及び疾病
9. 感情・人格心理学	22. 精神疾患とその治療
10. 神経・生理心理学	23. 関係行政論
11. 社会・集団・家族心理学	24. 心理演習Ⅰ・Ⅱ
12. 発達心理学	25. 心理実習Ⅰ・Ⅱ（80時間以上）※ ¹
13. 障害者・障害児心理学	

※1：4年次に履修します。学外での実習を中心に学内での事前学習と事後学習を行います。希望者は3年次秋学期におこなう説明会に必ず参加するようにしてください。

その他の資格について

「現代心理学コース」では、必要な科目を履修することで、(社)日本心理学会が認定する「認定心理士」の資格を取得することができます。この資格は、専門の職業に直接結びつく資格ではありませんが、大学で専門的に「心理学」を履修したことを証明できる資格です。

さらに、国家資格である「保育士」の受験科目に関連する科目の多くがコースの専門科目に含まれており、在学中に資格を取得し申請することで4単位が認定されます。^{※2}希望者には、学外の資格講座の紹介をすることもできます。

※2：(B-2)コース専門科目(現代心理学コース)「福祉心理学特殊講義(保育士)」として認定されます。これは履修最高単位数には含まれません。

大学院進学について

臨床心理の専門職に就くには、公認心理師資格か臨床心理士の資格を取得することが必要であり、現時点では、その両方を取得するのがもっとも有利だろうと考えられます。本学の大学院人間科学研究科臨床心理学専攻では、必要な科目をすべて備えたカリキュラムを提供しており、その両方の受験資格を取得することができます。臨床心理士の資格を取得するには、(財)日本臨床心理士資格認定協会が指定する大学院を修了後、試験を受けて合格することが必要です。臨床心理士の養成大学院の入試は競争が厳しく、かなり熱心に取り組まなければ取れない資格です。1年生のうちから臨床心理士資格についてよく調べるとともに、自己成長と勉学にしっかり励んでください。また、本学の大学院人間科学研究科臨床心理学専攻では、学内特別入試^{※3}も実施していますので、出願資格などを確認して計画的に学習してください。

※3：修得単位、成績等、要件を満たした場合、入学試験は、口頭試問のみになります。

2 メディア・デザインコース

学びのポイント

現代社会ではメディア環境が多様化し、コミュニケーションも複雑化してきています。こうした状況の中、多くの有力企業がその戦略の中心に「デザイン」を据えるようになりました。新しいメディア状況・社会状況の中で活躍してゆくため、メディア・デザインコースでは【コンテンツ制作系】、【企画プロデュース系】、【課題発見系】の三つの系を設置しています。

【コンテンツ制作系】では、ブランド力創出と直結しやすい、広告、映像などのコンテンツの制作を中心に学びます。【企画プロデュース系】では、イノベーション創出のためのコミュニケーションの分析（社会調査）と、創出のためのプロジェクトの立て方（マーケティング）を学びます。そして、【課題発見系】では制作と企画の間を橋渡しし、あるいはその間を思考する能力を育てる力を身につけます。

またコース専門科目においては講義に加え、1年次からコンテンツ制作や社会調査・マーケティングについて実践的に学ぶワークショップ科目が開講されています。専門領域への導入部分をワークショップで体験しながら、メディアとデザインについての自身の関心や適性、将来の進路などを考えて、必要な科目を積極的に履修してください。

社会調査士の資格取得について

「社会調査士」は、社会調査に必要な知識や技術に関する一連の認定科目の単位を修得することで取得できる「調査の専門家」としての資格です。社会調査士の資格取得を希望する場合は、「社会調査士の資格取得に対応した認定科目（予定）」にあげた科目で必要単位を修得し、資格申請の手続きを行う必要があります（一般社団法人社会調査協会のウェブサイトで、概要や取得方法を確認することができます（http://jasr.or.jp/for_students/what_sr/））。

社会調査士の資格取得に対応した認定科目（予定）

区 分		授 業 科 目	配当年次	社会調査士 資格取得カリキュラムに おける認定科目記号	備 考
(B)専門科目	(B-1) 専門 実践演習科目	マーケティング企画演習Ⅰ	2 (3・4)	G：社会調査の実習を 中心とする科目	2つの実習の うち、いずれ か1セット
		マーケティング企画演習Ⅱ	2 (3・4)		
		コミュニケーション企画演習Ⅰ	2 (3・4)		
		コミュニケーション企画演習Ⅱ	2 (3・4)		
	(B-2) コース 専門科目	社会調査論Ⅰ	1・2・3・4	A：社会調査の基本的 事項に関する科目	
		社会調査論Ⅱ	1・2・3・4	B：調査設計と実施方 法に関する科目	
		社会調査の読み方Ⅰ	1・2・3・4	C：基本的な資料とデー タの分析に関する科目	
		社会調査の読み方Ⅱ	2・3・4	D：社会調査に必要な 統計学に関する科目	
		アンケート分析法	2・3・4	E：量的データ解析の 方法に関する科目	EかFの どちらか 1科目
		質的データ分析ワークショップ	2・3・4	F：質的な分析の方法 に関する科目	

その他の資格について

教員免許（中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民））の取得を希望する学生は、本書の「教育職員養成課程で学ぶこと」を参照して科目を履修してください。

3 スポーツ健康コース

学びのポイント

スポーツ健康コースは、【ヘルスデザイン領域】、【スポーツコーチング領域】および【スポーツビジネス領域】の3領域から構成されています。保健体育科教員、スポーツインストラクター、スポーツ指導員、トレーナーや企業の健康管理部門等で活躍することをめざす学生諸君はもとより、さらに深く人間の健康や運動・スポーツについて知りたい学生諸君のために開設されています。また、社会や自然といった人間を取り巻く環境の中で「生きていく力」をより強固にすることを健康・スポーツの側面から支援するための領域であるとも言えます。自らの進路や関心にもとづいて、3領域の中から科目を選択し、よりよい環境の中でより充実して豊かに生きるために必要な基礎的な能力を身に付けてほしいと思います。

【スポーツコーチング領域】は、主に教育現場や生涯スポーツでの指導者をめざす人に開設した領域です。【ヘルスデザイン領域】は、企業の健康管理部門、健康産業、フィットネスクラブで働くことや、教員、公務員を目指す人あるいは人間の健康や運動・スポーツについて学びたい人のために開設された領域です。【スポーツビジネス領域】は、プロスポーツクラブや地域スポーツクラブ、またスポーツブランドや一般企業の現場で活躍できるビジネス感覚やマーケティングスキルを持ったスポーツ（ウー）マンを目指す人に開設された領域です。

保健体育教員をめざす学生へ

「教育職員養成課程で学ぶこと」を参考にして、1年次から開設されている「教職概論」、「健康とスポーツの理論と実際（水泳）」、「健康とスポーツの理論と実際（陸上）」、「健康とスポーツの理論と実際（柔道、剣道、ダンス）」、「健康とスポーツの理論と実際（ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、サッカー）」、「健康とスポーツの理論と実際（体操）」、「野外活動の理論と実際（野外キャンプ、スノースポーツ）」、などの科目を積極的に履修するようにしてください。また、「保健体育科実践Ⅰ・Ⅱ」では、教育現場の経験豊富な教員が保健体育の先生になるためには何をしなければならないか、何を身につけなければならないかについて具体的な指導しますので、2年次もしくは3年次に受講してください。

健康運動指導士をめざす学生へ

動脈硬化や心臓病など生活習慣病になるのは運動不足が原因のひとつとされています。これを防ぐために適切な運動を指導する専門家が必要になります。健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいいます。この健康運動指導士の資格は、昭和63年から厚生大臣（現：厚生労働大臣）の認定事業として、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、平成18年度からは、財団法人健康・体力づくり事業財団独自の事業として継続して実施されています。特に、平成20年度から実施された特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担うことについて、健康運動指導士への期待がますます高まっています。

健康運動指導士の受験資格は、次の表に示す科目を修得することによって得られます。そして、（財）健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格すれば「健康運動指導士」の資格を取得することができます。在学中に合格した学生（受験のチャンスは4年生の7月頃と10月頃の2回）は、申請すれば登録料の補助を受けられる制度があります。

健康運動指導士の受験資格を得るために必要な科目

	科 目		単 位
1	専門科目	ヘルスプロモーション	2
2	専門科目	生活習慣病と運動	2
3	専門科目	スポーツ生理学	2
4	専門科目	スポーツバイオメカニクス	2
5	専門科目	現代社会とエイジング	2
6	専門科目	スポーツ医学	2
7	専門科目	運動処方	2
8	専門科目	身体測定とデータ解析	2
9	専門科目	スポーツ心理学	2
10	専門科目	スポーツ栄養学	2
11	専門科目	エアロビック運動の理論と実際（陸上運動）	2
12	専門科目	健康とスポーツの理論と実際（陸上）	2
13	専門科目	健康とスポーツの理論と実際（水泳）	2
14	専門科目	フィットネスの理論と実際ーストレッチングと補強運動ー	2
15	専門科目	健康産業実習	2
		合 計	30

その他の資格について

スポーツ健康コースを修了することによって、日本スポーツ協会が認定している「スポーツリーダー」の資格を取得することができます（申請者のみ）。さらに上級の資格（指導員、コーチ、アシストレックトレーナー等）をめざす人は「共通科目Ⅰ」、「共通科目Ⅱ」の科目免除を受けることができます。

人間科学部人間科学科 履修系統図

基礎科目

人間関係の理論と実践	基礎演習Ⅰ
------------	-------

基礎選択科目

人間探究入門			
心理学概論	臨床心理学概論	メディア論	メディア・デザイン入門

専門実践演習科目

臨床心理学実践演習 (心理的アセスメント)	臨床心理学実践演習 (心理学的支援法)	メディアコンテンツ制作演習Ⅰ メディアコンテンツ制作演習Ⅱ 映像コンテンツ制作演習Ⅰ 映像コンテンツ制作演習Ⅱ	時事問題研究演習Ⅰ 時事問題研究演習Ⅱ ジャーナリズム研究演習Ⅰ ジャーナリズム研究演習Ⅱ
--------------------------	------------------------	--	--

コース専門科目

心理学研究法Ⅰ 心理学統計法Ⅰ 心理学統計法Ⅱ 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 公認心理師の職責 発達心理学 障害者・障害児心理学 健康・医療心理学 福祉心理学 教育・学校心理学 司法・犯罪心理学 知覚・認知心理学 学習・言語心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 社会・集団・家族心理学 産業・組織心理学	関係行政論 人体の構造と機能及び疾病 精神疾患とその治療Ⅰ 精神疾患とその治療Ⅱ 心理演習Ⅰ 心理演習Ⅱ 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 芸術療法 遊戯療法 集団精神療法 精神分析学入門 被害者・加害者の心理学 ホリスティック心理学 消費者心理学 ジェンダーの心理学 人間関係の心理学 対人社会心理学	(ワークショップ形式) デザイン発想ワークショップⅠ デザイン発想ワークショップⅡ 広告クリエイティブ・ワークショップⅠ 広告クリエイティブ・ワークショップⅡ グラフィックデザイン・ワークショップⅠ グラフィックデザイン・ワークショップⅡ Webデザイン・ワークショップⅠ Webデザイン・ワークショップⅡ サウンドデザイン・ワークショップⅠ サウンドデザイン・ワークショップⅡ	
		(講義形式：基礎) 総合デザイン論 広告戦略論 コミュニケーション論 社会テーマデザイン論	競争と逸脱の社会学 消費者行動論 映像メディア論 ソーシャルメディアの社会学
		(講義形式：発展) 広告クリエイティブ論 メディアアート論 文化表現論 ポピュラーカルチャー論 メディア制度論 Webデザイン基礎 Webデザイン応用	情報行動論 ジャーナリズム論 マスコミュニケーション論 社会起業論
人として生きる倫理 人間のセクシャリティ			
臨床心理学特殊講義	福祉心理学特殊講義	メディア・デザインコース特殊講義	

演習科目

卒業

選択科目

日本史概説 法学概説	東洋史概説 教育心理学概論	政治学概説 子どもの臨床心理学	西洋史概説 教育相談の理論と方法
---------------	------------------	--------------------	---------------------

現代心理学コース		メディア・デザインコース	
臨床心理学領域	ビジネス・社会心理学領域	コンテンツ制作系	課題発見系

基 礎 演 習 II			
情 報 リ テ ラ シ ー 実 習			
		健 康 と 運 動	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 概 論
マーケティング企画演習Ⅰ マーケティング企画演習Ⅱ コミュニケーション企画演習Ⅰ コミュニケーション企画演習Ⅱ	ス ポ ー ツ 健 康 実 践 演 習 I		
	ス ポ ー ツ 健 康 実 践 演 習 II		
デザインとエスノグラフィーワークショップⅠ デザインとエスノグラフィーワークショップⅡ 社会調査の読み方Ⅰ 社会調査の読み方Ⅱ アンケート分析法 質的データ分析ワークショップ	ス ポ ー ツ 心 理 学 ス ポ ー ツ 生 理 学 ス ポ ー ツ 社 会 学 こころとからだの発達 トレーニング概論 野外活動の理論と実際(野外キャンプ) 野外活動の理論と実際(スノースポーツ) エアロビック運動の理論と実際(陸上運動)		
	健康とスポーツの理論と実際(陸上) 健康とスポーツの理論と実際(体操) 健康とスポーツの理論と実際(柔道) 健康とスポーツの理論と実際(剣道) 健康とスポーツの理論と実際(ハンドボール) 健康とスポーツの理論と実際(バスケットボール) 健康とスポーツの理論と実際(バレーボール) 健康とスポーツの理論と実際(水泳)		
メディアリテラシー論Ⅰ 社会調査論Ⅰ 社会調査論Ⅱ	コ ー チ ン グ 論 I コ ー チ ン グ 論 II ト レ ー ニ ン グ 論 スポーツトレーナー実践		
	現代社会とエイジング 身体測定とデータ解析 運動処方 生活習慣病と運動 健康心理学 ヘルスプロモーション 衛生・公衆衛生学 健康産業実習		
デジタルマーケティング論 メディア産業論 文化人類学 消費社会学 観光サービス論	スポーツ実務実習a(企業PBL型) スポーツ実務実習b(海外視察型) スポーツマネジメント スポーツマーケティング スポーツ政策論 スポーツイノベーション スポーツツーリズム スポーツファイナンス		
	ス ポ ー ツ 栄 養 学		
		地 域 ス ポ ー ツ 論	
		スポーツ統計情報処理 スポーツ医学 スポーツバイオメカニクス 学校保健	保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ
		保健体育科実践Ⅰ 保健体育科実践Ⅱ 実技対策セミナー	
		ス ポ ー ツ 健 康 コ ー ス 特 殊 講 義	
研 究			

専 門 演 習 Ⅰ

専 門 演 習 Ⅱ

人 間 科 学 部

所 属 コ ー ス 以 外 の 専 門 実 践 演 習 科 目 / コ ー ス 専 門 科 目 本 学 科 配 当 外 の 全 学 共 通 科 目			
ス ポ ー ツ 健 康 コ ー ス			
企画プロデュース系	スポーツコーチング領域	ヘルスデザイン領域	スポーツビジネス領域